

令和4年度 第2回 仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	令和5年2月3日(金) 15時～16時30分
開催場所	東京エレクトロンホール宮城 601会議室
名簿	委員 小山田陽奈、加藤房子、神田あづさ、木村由希、白川愛子(会長)、菅澤和広、平田政嗣、古林史子、加藤邦治、小林弘美、村上薫(代理・横山敦史)、福田洋之 (欠席委員:片倉成子、門脇篤子、佐藤将人、柴崎崇、二階堂善一、大和一美)
	事務局 川口健康福祉局次長(保健衛生担当)、小椋保健衛生部長、千葉保健衛生部参事兼健康政策課長、飯間主幹兼健康増進係長(司会進行)

発言者等	発言内容
進行	<p>&lt;開会&gt;                      それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第2回仙台市食育推進会議を開催いたします。                      初めに、本会議を代表いたしまして、白川会長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。白川会長、よろしくお願いいたします。</p>
白川会長	<p>&lt;会長挨拶&gt;                      宮城大学の白川でございます。本日はよろしくお願いいたします。以降、着座にて失礼いたします。                      改めまして皆さん、本日はお忙しい中、また寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。先週は、最高気温が氷点下になるような大変寒い日もありましたが、暦の上では明日は立春で、そして本日は節分でございます。節分といえば、以前は東北では馴染みがなかった恵方巻が、コンビニエンスストアの宣伝効果などもあり、今では全国的に食べられるようになってきました。ネットニュースによると、昨年度の経済効果はなんと650億円だそうです。当初は恵方巻が売れ残って、食品ロスの大きな問題としてニュースにもなっていたところでしたが、最近では予約制となっていることが多く、食品ロス削減の意識が高まっているように思います。                      前回の会議でも説明がありましたが、国の第4次食育推進基本計画の重点事項として、SDGs、持続可能な食の視点が加えられまして、食品ロス削減から、世界的な食料問題や、環境問題にも目を向けていくこととなります。世界的なグローバルと地域のローカルを合わせた、「グローカル」という言葉がございますが、食品ロスについても、グローカルな視点で検討していく必要があるかと思っております。国内の食品ロスは製造や流通の過程で多く発生しておりますが、私たち消費者・生活者も当然ではありますが、食品ロスを削減させていくこと、発生させないことや、例えば規格外の野菜などの流通・活用など、さらなる工夫や取り組みが望まれますし、私たちの意識を変えていく必要もあるかと思っております。                      本日は、仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書及び次期仙台市食育推進計画の方向性についての議事もございますので、食品ロス削減のみならず、「健康を支える食」の視点や、その他につきましても、皆様の貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>&lt;会議成立報告&gt;                      議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。本日は、片倉委員、門脇委員、佐藤委員、柴崎委員、二階堂委員、大和委員から欠席のご連絡をいただいております。本日は11名の委員にご出席いただいております。過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、</p>

	<p>本会議は成立しておりますことをご報告いたします。なお、本日は、仙台市経済局長の代理として横山次長が出席しております。また、本日出席しております事務局側の本市職員につきましては、お手元の仙台市食育推進会議職員出席者名簿をご覧ください。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>&lt;資料確認&gt;        続きまして、本日の資料の確認をお願いします。お手元の会議資料一覧をご覧ください。まずは事前送付した資料でございます。資料1 令和4年度食育推進事業実施状況、資料2 仙台市食育推進ロゴマーク令和4年度活用状況、資料3-1 仙台市食育推進計画第二期最終評価報告書案、資料3-2 仙台市食育推進計画第二期最終評価報告書（案）に関するご意見への対応表、資料4 仙台市食育推進計画第二期最終評価と主要課題及び次期計画の方向性（案）、資料5 次期仙台市食育推進計画策定に係るスケジュール案でございます。次に、本日机上配布した資料でございます。ぱるけ通信、もっと食べよう！お魚レシピ集、モーベジ！スタートガイド、ゆたかなくらし2022年12月、健康お役立ちレシピ集、不足の資料はございませんでしょうか。        それでは、これからの進行につきましては、会長にお願いしたいと存じます。白川会長よろしくお願いいたします。</p>
白川会長	<p>&lt;議事&gt;        それでは皆様よろしくお願いいたします。        まず、本日の議事録署名について、菅澤委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。        それでは議事に移ります。議事（1）令和4年度食育推進事業実施状況でございます。食育推進計画に掲げる5つの柱に基づいて、今年度もそれぞれの事業を展開しているところかと思えます。まず、資料1、資料2に基づきまして、令和4年11月末までの状況を各委員の皆様からご報告いただき、情報共有を図って参りたいと思えます。        本日は、2つ目の議事に時間をかけて意見交換を行ってまいりたいと考えておりますので、主体委員3名と庁内委員4名に報告を絞らせていただきたいと思います。恐縮ですが、主体委員につきましては、私から指名させていただきますので、取り組みの事例などについてご紹介いただきたいと思います。まず、資料1の16ページに記載の、みやぎ環境とくらしネットワークの取り組みについてご紹介いただけますでしょうか。</p>
小山田委員	<p>環境とくらしネットワークの小山田です。私どもの活動報告をさせていただきます。        まず1つめ、食育ドキュメンタリー映画「いただきます～みそをつくるこどもたち」の鑑賞会を3月21日に予定しています。過去に全国上映された映画ですが、見逃してしまったとの声を聞き自主上映を企画しました。食育食育という感じではなく、食べることは美味しい、楽しいというような、心がほっこりする気持ちになってもらえたらと思っています。ママさんたちにぜひ来てもらいたいということで、キッズスペースがある会場で開催予定です。        続いて、ネオニコチノイド系農薬に関する普及啓発ですが、ネオニコチノイド農薬の問題は一般の方にはあまり馴染みがないのですが、欧米諸国では禁止されている農薬ですので、少しずつ知ってもらいたいということで、細々と情報発信を続けております。1月に丸森の養蜂農家さんへ取材予定だったのですが、雪の影響で延期となりました。もう少ししてから情報が発信できる予定です。私からは以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。次に、8ページに掲載の仙台市私立幼稚園連合会の取り組みについて、木村委員よろしくお願いいたします。</p>

木村委員	<p>仙台市私立幼稚園連合会では、私の園であるみやぎ幼稚園とめるへの森幼稚園の実績報告をいたしました。事業名は、食べることが楽しくなる食育ということで、みやぎ幼稚園では年長組の園児全員（54名）を対象に実施しました。園庭にある小さなプランターや花壇を利用して、二十日大根を栽培しました。スペースが限られているため、年長さんだけが育てられるという特別感を持って、お世話をし成長を楽しみにしました。一人ひとりが粒を持って、種をまいて、土に入れて、土をかけて、お布団をかけてあげようね、という形で種まきをして、次の日から、毎日当番が水かけをして成長を見守りました。4種類のミニトマトは、苗を買ってきて植えました。</p> <p>収穫した二十日大根は、もちろん、試食もしましたが、見て触って匂いを嗅いで食べて、と五感を使って楽しむことができた、と担任が話していました。子供たちは、食べなさい、だけでは食べない。五感を使って心を動かして、先ほど小山田委員もおっしゃっていましたが、楽しいな、と思うこと、こうやって育てることって楽しいなと思えるような仕掛けを作ることねらいとしていました。そうして、食べることによって、今まで大根って好きじゃなかったんだけどおいしい、と言って食べたり、大根の葉っぱを味噌汁にして食べると美味しく、それから大好きになったよ、という子どもが多かったです。いつもは残す子ども、ほとんどの子が全部食べられたということでした。ミニトマトは、やはり好き嫌いがありますが、食べてごらん、おいしいんだよ、僕大好き、ということを知って、じゃあちょっと食べてみようかなって子どもがいて、めっちゃあまいね、という感想を言ってくれました。</p> <p>年長さんのほとんどがトマトを食べられるようになって、保護者の方からは、幼稚園で育てて食べられるようになりました、ありがとうございますという言葉を書いていただき嬉しかったです。</p> <p>その後は、預かり保育の子どもたちとも結構長い期間、育てていまして、10月くらいまで収穫して食べることができました。年長さんだけでなく、年中や年少さんなどにも、ちゃんと水道で洗ってから食べてね、などとお話ししながら楽しみました。以上になります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。次に、市民公募の古林委員、お願いいたします。古林委員には、資料2の仙台市食育推進ロゴマークの活用状況についてご紹介いただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。</p>
古林委員	<p>古林と申します。食育推進ロゴマークの活用状況についてご報告させていただきます。</p> <p>前回初めて食育推進会議に参加し、その後、私にできることは何かと考えて、ロゴマークをみなさんにお知らせすることができるのではないかと思います、仙台市にご相談してこのような形になりました。</p> <p>私が勤務しているのは放課後等デイサービスという障害を持った子供に対し、放課後の余暇を支援する職場なのですが、職場で発行している会報で、私が食育の記事を担当しているため、そこでロゴマークを紹介しました。発行部数は900部で、配布先は、利用者、会員および関係先、同様の施設、学校等になります。実際活動で利用する市民センターなどの公共施設には、子供たちが直接会報を持参しました。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。とても素敵なロゴマークですので、皆様もぜひご活用ください。</p> <p>それでは資料1に戻りまして、仙台市の取り組みについてご報告をお願いいたします。はじめに子供未来局からお願いいたします。</p>
小林委員	<p>子供未来局の主な取り組みについてご紹介させていただきます。</p> <p>資料1の9ページ・④-B-7食育推進担当者の資質向上進めます、についてです</p>

	<p>が、公立及び私立の保育所などで構成している仙台市保育所連合会で栄養士や調理員を対象の研修を実施し、食育担当者の資質向上を図っております。この連合会の中に給食会研究委員会を設置し様々な研究発表を行っております。令和3年度に食生活実態調査を実施しまして、その中で家庭でのお魚の使用頻度が低い傾向が見られたため、今年度の取り組みといたしまして、皆様にお配りしました「もっと食べようお魚レシピ集」を作成いたしました。年度末に保育園に通う全家庭へ配布する予定としております。</p> <p>続いて21ページの保育所幼稚園児の保護者、地域の子育て家庭の保護者の方に食生活について情報発信をします、についてです。保育所の他にのびすくなどでも行っておりますが、離乳食講座などをとおして健康的な食習慣について情報発信をしております。それから、保育所での保育参観や懇談会で対象の年齢に合わせた食についての話をし、ご家庭で食への興味関心を深めるように努めております。</p> <p>続きまして、22～23ページ①-B-8の仙台市の保健福祉センターでの取り組みといたしましては、栄養士や保健師などの専門職が、母子健康手帳交付時や離乳食教室、幼児健診の機会をとらえまして、妊産婦、乳幼児の健康的な食生活について啓発や、個別相談にも応じています。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大のため、健診を含め集合形式で行うものは中止、それから規模縮小やオンラインに切り換えて工夫しながら開催してきましたが、令和4年度は離乳食教室の対面とオンラインのハイブリッド開催や、区で作成した朝ご飯をすすめる動画を健診会場で見ていただくなど、工夫しながら実施しています。23ページ・2の3～4ヶ月児育児教室も、コロナの関係で令和2年3月から中止していましたが、昨年4月から順次再開しています。これについては保護者からの質問も多く、参加者も8割と高いと状況が続いています。</p> <p>続いて23ページ①-G-2の食べることが楽しくなる体験を通しての取り組みについてですが、1番目の畑づくりとその収穫物を利用した食事づくりで、食べることの大切さを教えています。</p> <p>24ページの②-A-1、給食や季節の行事を通して郷土食などに触れる機会を作るということで、取り組みを行っています。</p> <p>続きまして、資料2のロゴマークの活用状況について、子供家庭保健課の取り組みとして、栄養リーフレットにロゴマークを掲載し、各区で実施する育児教室や幼児健診の参加者全員に配布しています。以上です。</p>
白川会長	ありがとうございます。続きまして、経済局、お願いいたします。
横山経済局次長	<p>経済局でございます。</p> <p>資料1の26ページから28ページまでが経済局の取り組みになります。</p> <p>まず資料1・26ページの3、卸町の中央卸売市場で毎年実施している見学会についてです。夏休み親子市場見学会は、今年の8月に実施できていれば、記念すべき20回目の見学会でした。マグロを例にとると、お子様は刺身になってお皿に盛られた状態を見るのがほとんどだと思いますが、市場で初めて、自分の体より大きいマグロがせり場から仲卸に移されて解体されているところを見学できるということで、保護者にもお子様にも非常に好評だったのですが、実施予定だった8月ごろにコロナ感染が急増したため泣く泣く中止としました。今年はコロナが収まって予定通り実施できればと思っています。</p> <p>つづいて地産地消のための情報発信ですが、一昨年ぐらいから力を入れてやっております。まず令和3年8月からInstagramを開始して、1年半ほど経ちました。おかげさまでフォロワー数が増加していて、現在1300名ぐらいになっております。これが多いかどうかは評価が難しいところですが、ちょっとずつ増えているという状況です。投稿内容も工夫していて、市内各地の生産者を訪ねて種ま</p>

	<p>きや栽培や収穫の様子を取材して、その様子を写真や動画で発信しています。</p> <p>それから仙台市は人口 109 万人の大都市で、中心部には飲食店がたくさんありながら、その中心部から東西南北どの方向の 10 キロ離れると田園地帯、生産者が近くにいるというまさに地産地消に向けた地理環境にあります。しかし今までそのメリットが生かされていなかったため、現在は仙台市内や近郊で生産された野菜をより積極的に飲食店で扱っていただく取り組みに力を入れております。資料にも記載しておりますが、昨年 8 月と 10 月に、一番町にある CROSS B PLUS という、壁一面が大型 LED 画面となっているおしゃれなお店で、仙台産野菜を中心とした特別メニューを作っていただきフェアを開催しました。おかげさまで予定より早くメニュー完売という状況です。</p> <p>それから資料掲載には間に合わなかったのですが、2 月 1 日に南町通にあるダイワロイネットホテルの最上階にレストランがオープンしました。仙台市内産の野菜や宮城県産の肉・水産物など、地元産の食材でメニューを構成するというコンセプトのレストランで、私どもも開店前から連携して、食材を提供する農家さんをご紹介しました。先日オープン前レセプションに参加した際には、仙台産野菜には素晴らしいポテンシャルがあると、今まで気がつかなかった魅力を発見しました。ぜひ委員の皆様もお越しいただければと思っております。</p> <p>資料の他の部分は、従前から取り組んできたことの継続となりますので、改めての説明は割愛させていただきます。以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。続きまして、教育委員会、お願いいたします。</p>
福田委員	<p>教育委員会でございます。</p> <p>まず 29 ページの①-A-1 学校給食フェアについてです。市民の方々へ学校給食の取り組みをお知らせするという事で、市役所本庁舎 1 階ロビーで学校給食の歴史であるとか各学校での食育の取り組みなどの展示を行っております。地下の食堂では、実際に児童生徒が食べている学校給食を 1 週間提供しています。教科書に出てくるお話にちなんだ献立や地元の食材を使った献立が中心になります。今年は曲がりねぎ、ずんだ団子、くじらの肉、モウカザメ、ほや、といった食材を使った献立を提供させていただきました。</p> <p>続いて①-B-5 市民対象の食育に関する講演会の実施についてです。8 月に仙台っ子健康セミナーというタイトルで保護者、市民、教職員を対象に行っております。スポーツ栄養学の観点から、子供の成長段階における健康増進や体力向上のための適正な食と運動のあり方についての講演会になっています。参加された保護者からは、効果的な食生活を学ぶことができた、部活動をしている子供の食事づくりの参考になったとの声をいただきました。また、①-B-7 学校職員を対象として、食物アレルギー研修を年 2 回実施しています。</p> <p>続いて 30 ページ①-B-9 親子食育講座として、各学校の PTA や社会学級の皆さんに対し親子食育講座の開催の支援を行っております。今年度は予定含め 22 校で実施し、小学生とその保護者にご参加いただいております。</p> <p>それから年間を通して、学校給食を生きた教材として、食育、給食時間の指導、献立表や給食だよりの紹介を行い、児童生徒や保護者の食に対する関心を高める取り組みをしています。それから、地場産物を活用して地産地消に繋がる取り組みも年間を通じて実施しています。冒頭会長のお話に節分の話が出ましたが、昨日と今日あたりの給食では、いわしと大豆を使ったメニューが出されたようです。</p> <p>ロゴマークについては、各給食センターの献立表や、先ほどご紹介しました親子食育講座の手引きに掲載しています。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。健康福祉局、お願いいたします。</p>

加藤（邦）委員	<p>健康福祉局および先にご紹介があった3局以外の取り組みについてご紹介させていただきます。</p> <p>健康福祉局は食育推進の事務局のようなところでございますので、多岐にわたる事業を実施しています。はじめに、34ページの①-B-2の3と4、モーベジ！という一般的には使われていない言葉を使った事業をご紹介します。これは食育推進事業の標語、モーベジ、モーニングベジタブルということで、幼児健診や離乳食教室等で、本日お手元に資料としてお配りしましたモーベジ！スタートガイドやレシピを配布して、朝食時の野菜摂取について啓発をしています。また、保育所や幼稚園と連携して幼児食育推進連携事業を実施しています。食育通信の配布、ビデオ上映、アンケートの実施などが含まれるプログラムを、今年度は予定も含め7施設で実施する予定でございます。</p> <p>次に、健康福祉局には衛生部門があり、食品衛生、身近なものだと食中毒防止の講座などを行っております。44ページ・⑤-A-1の食品の安全性に関する講演会であるとか、45ページ・⑤-A-4の食品等事業経営者セミナーの開催ということで、民間の外部講師などをお招きし、HACCPや衛生基準の話、お肉の加熱不足による食中毒についてなど、食品安全という観点でお話しをしていただきました。どちらもウェブによるライブ配信を行いました。</p> <p>続いて、25ページの環境局の食品ロス削減の取り組みについてです。第1回会議で皆様に配布した食品ロスガイドブックを活用した講座を実施しています。毎回50名程度の方が参加と、アーカイブでは20名～50名の方に視聴していただき、おうちで食ロスゼロキッチンというテーマの講座の開催で食品ロスの削減に取り組んで参りました。</p> <p>最後にロゴマークの活用について、資料としてお配りしました仙台市消費生活センターで作成している「ゆたかなくらし」リーフレットに掲載しています。今回は食品ロスの話でございましたので、トップページ左下に食育せんだいのマークがそっと入っております。また、「健康お役立ちレシピ集」も本日お配りしておりますが、こちらには大きく掲載しました。中にも様々なところに掲載しております。以上でございます。</p>
白川会長	<p>私の大学は太白区にあり、モーベジの活動を一緒に進めてさせていただいたこともあります。以前、きれいなポスターを作成されていて、現在も私の居室に飾っている状況でございます。</p> <p>ただいま各委員から今年度の取り組みについてご報告をいただきましたが、ご質問等ございますでしょうか。</p>
加藤（房）委員	<p>2点質問です。1点目、アプリかなにかを登録すると、賞味期限が近い食品を安く購入できる取り組みを仙台市と食品業者が一緒に実施していると、以前ニュースで拝見しました。その取り組みが資料1・25ページに記載されていないのですが、環境局では実施していないのでしょうか。</p> <p>2点目、資料1・45ページ一番下の⑤-B-1の参加者数・状況等の説明の中で、出前講座、宅配講座とあります。出前講座と宅配講座の違いについて教えてください。</p>
事務局（千葉参事）	<p>1点目は、環境局で実施している「ワケルくんもったいないマルシェ」のことではないかと考えます。こちらは、利用者が手軽に食品ロス削減に貢献できることや、お得に買い物ができるメリットがあり、専用サイトから利用登録をして食品の予約購入をする事業を実施しています。チラシやホームページもつくられておりますので、そういったところで委員の皆様にも見ていただいたのではと思います。</p> <p>2点目、出前講座と宅配講座について、2つ記載していますが基本的には同じで、外へ出かけて講座を開催しています。</p>

白川会長	<p>それでは、議事の(2)仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書(案)及び次期仙台市食育推進計画の方向性について、に移ります。</p> <p>昨年末、委員の皆様には、仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書(案)について、ご覧いただきまして、ご意見を頂戴しております。</p> <p>本日は意見を反映した報告書(案)を資料3-1、委員の皆様からいただいた意見と意見に対する対応を集約したものを資料3-2、最終評価報告書をまとめ、次期計画の方向性を示した(案)を資料4として準備しております。事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局(千葉参事)	<p>資料3-1の仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書(案)につきましては、昨年12月に委員の皆様にご意見照会を行っており、いただいた意見等を反映したものでございます。本日は資料3-2に、これらの意見への対応についてお示ししておりますので、こちらから主だったものをご報告いたします。</p> <p>今回委員の皆様からいただいたご意見、ご提案、ご質問等は全部で27ございました。最も多かったのは、「次期計画に向けて引き続き取り組むべき課題に関する意見」が12、「取り組みの評価・課題に関する意見」が7、「指標の読み取りや分析に対する意見」が3、「推進体制に関する意見」が3、「取り組みに関する質問」が1、「文字の修正」が1という状況でした。</p> <p>報告書(案)に反映した意見について主なものをご報告いたします。まず、2ページ目の意見No9、推進の柱①の「取り組みの評価と課題」の部分となります。「朝起きるのが遅いので食べる時間がない」、「食欲がない」の回答が多かったことと、「仕事や子育て等で自身の健康の優先順位が低くなるこれらの世代に対する取り組みは、その後の生活習慣病予防の観点からも重要である」については、食生活改善ではなく、そもそもの生活習慣を見直すことが必要ではないか、という意見を頂戴しております。こちらにつきましては、ご意見のとおり、食生活を含めた生活習慣の見直しが必要であることから、資料3-1 8ページ・(黒ポツ)三つ目の下から3行目にあります通り、文章に「生活習慣」を追記し、「子どもの食生活には保護者の生活習慣や食習慣が大きく影響することから、保護者自身の食生活も含めた基本的な生活習慣の啓発についてこれらの世代に直接働きかけることができる関係機関が課題を共有し、取り組みを進めていく必要がある。」と修正いたしました。</p> <p>また、資料3-2 5ページの意見No19、推進体制の評価につきましては、「食育推進ロゴマーク」の普及拡大についての評価と課題に対する追記の意見をいただいております。これに対し、資料3-1 25ページ 7推進体制の評価の2段落目の2行目から「ロゴマークは啓発媒体や講座チラシなどに掲載するなど、仙台市としての食育推進を周知するため様々な場面で活用してきた。今後もロゴマークを目印として市民が食育の取り組みに関心を持つよう、ロゴマークの積極的な活用を進める必要がある。」と追記いたしました。</p> <p>また、次期計画に向けた課題に対するご意見として、資料3-2 5ページ意見No18にありますとおり、推進の柱⑤の食品表示に関する取り組みに関して、仙台市として市民に対し、「食品を利用する時の表示の意味を知る能力」、「食品安全や表示を理解するために、消費者も読み解く力の向上のために必要な施策を推進する」ことを課題にしてほしい等、次期計画策定の参考となるご意見をいただいております。</p> <p>続きまして資料4、仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価と主要課題及び次期計画の方向性(案)についてご説明いたします。こちらは、資料3-1 仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書(案)をまとめたものとなります。こちらは、表の左側に記載のとおり、6つの視点から評価と課題をまとめております。まず、「食習慣と健康の視点」からの評価は、朝食を毎日食べる人の増加には至</p>

	<p>らなかった、栄養バランスの良い食事を実践している人の増加が見られなかった、適正体重の範囲にある人の増加はみられず、幼児・児童・生徒の肥満も増加している、としております。課題は、健康的な食習慣の基本となる、朝食を毎日食べる習慣の確実な定着が必要である、栄養バランスのとれた食事が実践できるよう意識と行動が結びつく働きかけが必要である、肥満対策および若い世代のやせの課題に対して、適正体重とその重要性を伝える必要があるとしております。次に「食の安全性と食品に対する信頼性確保の視点」の評価は、安全な食生活を送ることについて判断している人は約6割となっており、国の令和7年度までの目標値と2割程度の差があるとし、課題は、食の安全性確保は健康な食の基本となるものであることを改めて認識し、科学的な考え方の下、安全な食生活を送ることを自ら判断できる人を増やすことが必要である、としました。「食の由来・文化の視点」の評価では、20～30歳代の若い世代で伝統料理や郷土料理を全く食べない人の割合が高く、課題は、核家族化の進展や食の多様化が進んでいく中、改めて郷土料理や日本食の良さや大切さを認識し、伝承していくことが必要である、としました。「生産・流通・消費の視点」の評価は、保育所・幼稚園・学校給食における地場産物の積極的活用や、SNS等を活用した情報発信により、地産地消を促進したこと、家庭系食品ロス量は減少しているとし、課題は地元農産物の消費拡大に向けて生産者との交流や農業体験を通して、地元農産物への関心を高めつつ、積極的な情報発信により利用促進を進める必要があること、ごみ削減の観点からも引き続き食品ロス削減を進める必要がある、としました。「推進体制の視点」では、食に関わる様々な機関が主体となり、それぞれの特徴を活かし連携・協働しながら食育を推進してきた。さらに一体的な食育が進む取り組みも進めていることを評価とし、課題は、仙台市としての一体的な食育の取り組みをさらに強化していく必要があるとしております。最後に、「新たな視点」の評価としましては、本市としても、コロナ禍においてオンラインや動画等を活用した情報発信などの取り組みを進めてきたこと、国の基本計画においては、デジタル化に加えてSDGsの考え方を踏まえた内容となっていることから、課題はデジタル化に対応した食育推進の更なる強化が必要であり、さらに食育によるSDGs達成への視点を踏まえる必要があるとしました。</p> <p>最後に、次期計画の方向性ですが先ほどの課題を踏まえまして、国から示されております、第4次食育推進基本計画の重点事項に沿うような形で、3つの視点で内容を整理してしております。まず、「健康を支える食の視点」では、朝食摂取の定着、肥満対策、バランスの良い食事の実践、食の安全性確保としました。「食文化の理解と伝承の視点」では、地元食材の理解促進、伝統料理・郷土料理の伝承、和食の推進を掲げ、「持続可能な食の視点」では、地産地消の推進、食品ロス削減の推進、食育によるSDGs達成への貢献としております。そして、これらの視点で取り組みを進めていく際の「計画の基本」として、一体的な食育推進、新たな日常やデジタル化に対応した食育推進としました。</p>
白川会長	<p>ただいま、最終評価報告書（案）についての主体委員からの意見と対応、そして最終評価と主要課題・次期計画の方向性の（案）について説明いただきました。これからの時間は、意見交換を行っていただきたいと思います。</p> <p>来年度は次期食育推進計画を策定する年となりますが、今回事務局から出された主要課題や次期計画の方向性を中心に、皆様からご意見を頂き深めていただければ良いと思っております。</p> <p>次計画の方向性を踏まえて、盛り込むべき内容や、取り組むべきこと、新しいことやこれまでの取り組みの中でもっと充実させたほうがよい取り組みなど、委員の皆様から2分程度でご発言をお願いしたいと思います。</p>

<p>小山田委員</p>	<p>MELON 内でこちらに関して意見のすり合わせをしました。アンケートの結果などをみると食育や食文化への関心が高い一方で、指標の結果からは、健康的な食生活をしている、適正体重を維持している人の割合は低いように思います。食生活や食育への関心と健康が結びついていないと感じたので、そこを合致させる情報発信が必要だと考えます。</p> <p>学校給食について、各学校の地域性はあると思うのですが、地場産品の利用・地産地消を進めていければと環境団体としては思います。なかなか進まない理由には市が広すぎることもあるかなと感じましたが、先ほど、中心部から少し離れると田園が広がっているという地理環境が生かせれば仰っていたので、保育園や学校現場で給食の地産地消というものが進めばいいなと思っております。</p> <p>方向性にある持続可能な食の視点について、食と環境は大きなつながりがありますので、脱炭素の観点でも、環境の視点と食育の結びつけを情報発信や講座で一般の方々にも認識していただくためにも必要な観点かなと考えております。</p>
<p>加藤（房）委員</p>	<p>各構成団体からの報告をみると、宮城大学では若者の食育についてのゼミ、健康福祉局では大学生に向けた食育事業との記載がありました。同じような事業を行っている行政や大学で連携・協働して、情報共有しながらやればもっと広がりができるのかなという印象を持ちました。行政だけ、各団体だけではなく、企業と現場などとも、連携・協働という取り組みが計画に盛り込まれるとよいと思いました。</p> <p>SDGs の観点からいうと、「誰ひとり残さない」ということで、一方ではまだ食べられる食品を廃棄しているけど、日本でも食べたくても食べられないとか、そういうお子さんやご家庭があるので、こども食堂や食品を必要とする家庭とまだ食べられる食品を持つ人・団体をマッチングする仕組みなど、ロスさせない、食べきるといふことと、貧困格差・食の格差を解消する施策も盛り込んでいただければと思います。</p>
<p>白川会長</p>	<p>私の大学では授業の一貫として食育を行っていますが、今後、連携についても積極的に考えていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
<p>神田委員</p>	<p>計画の基本にデジタル化というのがございますが、これからは避けて通れないことなのかなと思います。学生たちを見ていますと、新聞どころかテレビも見ない、デジタルでしか情報収集できない状況になっています。それがまた今の小さなお子様の親御さんもそうである、将来母親になる学生たちもそうであることから、この部分で興味を引いて、しっかり食育を学んでいける取り組みができたならよいなと、私もこれから考えていきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>木村委員</p>	<p>朝食を毎日食べる割合が年々低下しているということで、令和3年の4歳児は92.5%となっていますが、自分の幼稚園の子供たちも100%ではないけれども、この数字と比較するとこれよりは高いのではないかな、という感想を持ちました。それで、出典をお聞きしまして、幼児の家庭における食生活実態調査ということで、これは保育所の調査であると伺い納得したところがあります。</p> <p>というのも、保育所はおそらく10時と15時におやつが出るのではないかと思います。幼稚園の場合、午前中は活動があり、お昼はお弁当か給食、その後14時までが教育時間になります。そのあと預かり保育の子たちは預かり保育の方に移動して、15時過ぎにはおやつがありますが、基本的に午前はありません。</p> <p>もしかすると、お母さんたちも朝食を食べないことや、もちろん忙しいということもありますし、おやつが出るから大丈夫という意識もちょっとあるのかなと想像しました。幼稚園と保育所では事情が異なるのかもしれないかもしれません。もし私も保育所に預けていたら、10時におやつを食べるからと朝食を食べさせずに出してしまうことがあるのかもしれないなと思いました。感想になりますが、以上です。</p>

菅澤委員	<p>学校からということで、お話をさせていただければと思います。今週火曜日に学校給食運営審議会があり、その場で学校給食が持つ重要性について改めて確認をしてまいりました。先ほど小山田委員からご意見を頂戴した学校給食の地産地消に関して、これは学校の置かれた環境によって、ある程度の幅があることは事実かなと思います。私は東二番丁小学校でございますが、周りに田んぼ畑はございません。ただ栄養教諭は精一杯の努力をして、なるべく地元の食材を使用しています。先ほど教育長から話がありましたが、本日は行事食が提供され、いわしの蒲焼きや豆が出ました。そういった行事食や伝統食に加え、世界の趨勢に合わせて、ワールドカップのときには世界の食事、ドイツ戦のときにはジャーマンポテトが出ました。食ってやってくださいということで。やはりそういうところで、楽しい食事、楽しい給食については、学校現場としては頑張っているかなと思います。</p> <p>一方で、給食や学校にかかる比重が年々大きくなってきていると感じています。栄養摂取基準に関して、給食は栄養摂取基準の3分の1を超えたものを要求されています。つまり、家庭の食事でとりきれていないものは給食で補いなさい、というのが国の考え方になってきているのかな、と。でもちょっと待ってください、と。それはおかしくないですか、というのがやはり私どもの正直な気持ちです。</p> <p>子供が自ら朝食をつくることができるのは、中学年～高学年からかなと思います。やはり保護者の方の意識の向上を図る必要があるのではないかと私は思います。学校、教育委員会でも、朝食の効用について資料を出して保護者の方にそういったご説明を重ねているところでございますが、親世代になった時では遅いのではないかと私は思います。その前段階の若い方に対して、今はデジタル化の時代ですので、アプリやYouTubeなども活用して大切さを啓発していくことが大事なのではないかと思えます。</p> <p>子供たちは、一生懸命食べています。今日も給食の時間に各教室を回ってきましたが、給食室の努力が大きいですね、魚は苦手かなと思っていましたが、蒲焼きにしましたらご飯にのせて美味しそうに食べていました。</p> <p>私も完食してまいりました。役所にいるときはもう少しスリムだったのですが、給食は栄養価が高いので、現場に戻ったらぷっくりしてしまいました。私からは以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 続きます、平田委員お願いいたします。</p>
平田委員	<p>歯科的な視点からは、いかに食べるかということをいつも考えています。ここ30年で、日本の子供たちの口の中に変化が出てきています。3歳児健診の時によくわかりますが、歯並びが窮屈な子供や、噛んだときに下の歯が全然見えない子供が多くいます。30年ほど前は、乳歯列だと本当にすきっ歯で、噛んでカチンとすると下の歯が全部見えるぐらいでした。それだけ隙間がたくさんできるのは3～5歳児ぐらいまでにしっかりと顎が使った食事をとることによると言われています。スキヤモンの成長曲線は、一般型、骨格型、リンパ型、生殖型とありますが、骨格の成長曲線がどのようになっているかを見ると、5歳まで上がってその後フラットになり、思春期にまた上がっていく形になっています。ですので、5歳までの低年齢期にしっかりと口を使って噛んで顎を成長させないと、実は遅いのです。その部分を考えて、保護者を巻き込んだアプローチが必要だと考えます。</p> <p>例えば、朝食を食べる習慣を見ると、そもそも食べる習慣がないと回答が結構あります。これは明らかに世代を超えた問題になりつつあると考えておりました。実は、肥満と歯や口の状態は非常に関連があります。食べられないから食べやすいものを食べる、その結果栄養過多になって肥満になる、という現状もある</p>

	<p>のかなと思います。</p> <p>加藤委員からお話がありましたが、さまざまな機関の連携が必要だと考えています。例えば、今後コロナが落ち着いたら、PTA フェスティバルのような、市民や子供たちが参加できるイベントがあれば良いかなと思います。委員の皆様がそれぞれテーマとして抱えている食事の内容や形態など、例えば歯科の視点からはこれを食べてほしいとか、意見を集めて発表したり食材を提供したり、そのようなイベントができると楽しいかなと思います。食育は、受ける当事者と我々やる方の両人が楽しく、面白くできればいいのかなと思いました。そうすると、地場産品を提供してくれる人が出てくるかもしれないし、このロゴマークも活用できるし、いいことづくめなのかなと考えていました。</p> <p>次期計画の方向性として、デジタル化やSDGsがありますが、もうひとつ、当事者を巻き込んだ食育、というのもキーワードになるのかなと思い、意見シートにも書かせていただきました。皆様で連携しながらやっていけると楽しい委員会活動できるのかなと考えています。</p>
<p>古林委員</p>	<p>健康を支える食の視点では、朝食・肥満・食事のバランスが長年の課題であり続けています。実際当事者は、良くないことは理解している方が多いと思うのですが、自分は大丈夫とか、先のことだからとか、危機感が薄いように感じています。いかに自分のこととして捉えて、今やるべきことを伝えていくのが大事で、実践しなければ意味がなくていかに行動を起こしてもらうためにどうしたらよいか考えると、楽しく、ということが大事かなと思います。楽しければやる気につながるし、皆様からも楽しくという言葉が出ていて、やはり大切なことだと実感しました。</p> <p>食の安全については、若い方の高い情報収集能力が高いので、そこを生かして取り組んでいくのは大事かなと思います。</p> <p>食文化の理解と伝承について、進学や就職で地元を離れる若い方も多く、一旦離れることで家庭や地元の良さに気づくことがあり、その改めて良さに気づく機会づくりは大切だと考えます。しかし、根本的な良さは幼少期の食事にあると感じていて、現在は多忙で行事食や郷土料理がめんどろ、子供は食べないから出さないといった家庭も多く、結構厳しい状況なのかなと思います。そう考えると、給食の重要性を改めて感じ、給食からのアプローチをぜひ続けていただきたいと思いました。伝承については、高齢の方は、長年の経験に基づいた知識や技術をもっていらっしゃると思うので、その方々につなげる、活かすことが大事だと思います。</p> <p>持続可能な食の視点に関して、皆様のご意見のとおり、食品ロスや地産地消、SDGs や世界の現状など、多様な観点を強化して取り組んでいくことだと思います。仙台は大きな産地かつ大消費地で、そこが仙台のよいところで、旬の食材が手に入りやすいという強みがあります。それが食べ慣れることにつながって、食べ慣れることは生涯の食に影響するとか、そうなるのではと思います。現場でもおやつに芋煮を、長期休みには具沢山味噌汁を提供するのですが、本当によく食べます。今日はどんな具？と聞かれたりもします。とにかく食べ慣れているものは非常に強みになるとか、それが仙台だからできることに繋がるのではと思っています。そういう良い循環の仕組みは現在もされていると思いますが、どんどん、もっとできていければいいかなと感じました。</p> <p>最後に、一人ひとり当たり前に実践できるよう、SNSでの発信が不可欠だと思います。利用者は手軽に情報を得る手段として、発信者は会場の設定や準備をせずに1度に多くの方にダイレクトに情報を届ける手段として、非常にメリットが大きいと思います。また、反応もすぐ見ることができますので、この部分の強化は大事だと思います。</p>

白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私からもひとことお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>仙台市を含め宮城県は男性の肥満が多く、メタボの割合が全国的にもあまりよくない記録を更新し続けている状況です。資料4の上部に肥満者の割合が、また資料3-1・26ページの主要課題の中央に「肥満の課題においては、男性は30代から40代にかけて肥満者が急増するため、その前の世代への肥満予防策を強化する必要がある」と記載されております。実際この資料4の肥満者の割合の図を見ると、20代から30代にかけても肥満者の割合が増加していますので、この間で適正体重の維持を図ることができれば、それ以降の肥満予防、ひいては生活習慣病の予防につながるのではないかと思います。</p> <p>また、朝食摂取の定着については、若い世代への朝食摂取の定着を図れば、若い世代が親になった時に、次世代の子供たちの朝食摂取習慣や、それに伴う望ましい生活習慣の定着につながるのではと思います。先ほど生活習慣と朝食摂取習慣についてのお話がありましたが、どちらが先かということもあるのですが、朝食摂取習慣を定着させると、それに伴って生活習慣も整うというところがあるかあとと思います。最近、どの年代でも食を含めた生活の多様性がありますので、それに応じた形での朝食摂取の定着を図れば、食への関心や健康意識の向上にもつながっていくのではと思っております。</p> <p>資料4は、左側に最終評価、中央部には最終評価を踏まえた主要課題が、右側には国の食育推進基本計画の重点事項に関連づけた次期計画の方向性が記載されています。全体を大変わかりやすく事務局にまとめていただきましたので、資料3-1、資料3-2も参照しながら、さらに今後の食育推進についてご検討いただければと思います。</p> <p>それでは、議事の(3)その他に移ります。次期食生活食育推進計画策定に係るスケジュールについて、事務局よりお願いいたします。</p>
事務局(千葉参事)	<p>資料5をご覧ください。来年度は次期食育推進計画策定の年となります。このあと、最終評価報告書を3月中に公表し、5月末から6月頃に骨子案を策定します。10月から11月にかけて中間案を策定し、パブリックコメントを経て、令和6年2月最終案を提示、3月に次期食育推進計画を策定する予定としております。来年度の食育推進会議は、骨子案、中間案、最終案についての協議が必要となりますので、年間3回の開催を予定しております。どうぞよろしくようお願いいたします。</p>
白川会長	<p>ただいまの説明についてご意見、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>それでは、本日委員の皆様からいただいたご意見等を反映した【資料3-1】仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書(案)につきましては、これをもちまして、最終としてよろしいでしょうか。</p> <p>反対のご意見がないようですので、この後は、事務局で最終調整し完成させていただきたいと思います。また【資料4】仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価と主要課題及び次期計画の方向性(案)につきましては、いただいたご意見を事務局で調整し、次期計画の骨子案に反映させていただきたいと思います。</p> <p>最後に、委員の皆様から全体を通してのご意見、ご質問等はございますでしょうか。なければ、以上で議事を終了させていただきます。</p> <p>皆様から様々なご意見を頂戴し大変ありがとうございました。それでは、事務局に進行をお戻しします。</p>
進行	<p>&lt;閉会&gt;</p> <p>委員の皆様、長時間にわたるご議論ありがとうございました。仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書は、2月中をもって内容を固め、3月に公表予定でございます。完成したものは改めて委員の皆様にお送りしたいと存じます。</p>

	以上をもちまして、令和4年度第2回仙台市食育推進会議を閉会いたします。
--	-------------------------------------

令和 5年 月 日

署名委員

印